

栄光

説教・「主に祈られて、一つとなる」
新井美穂牧師…1
特集・
思いきり笑おう…2
説教・「今から後」
種房倅子教師…5
説教・「日々の志」
岸俊彦牧師…6
東京教区常置委員
に選出されて…7
長老のファイル…7
牧師の書齋から…8

『主に祈られて、一つとなる』

説教
エゼキエル書39章21節～29節
使徒言行録1章8節～14節

伊勢原教会牧師 新井美穂

主のご昇天は、イースターから40日目の出来事です。この40日間は、弟子たちが変えられるために必要な時間でした。キリストは、聖霊が、一人ひとり、個人個人に与えられ、その時世界が変わるのではなく、まず、一人ひとりが変えられ、「証人」になると約束されました。「証人」という言葉は「殉教」を意味する言葉です。見物人から、積極的に関わり参与する者へ、眺める者から眺められる者になる変化は、キリストの御旨を生きようとするが故に、野次馬たちから罵声を浴びせられる側に立つ事を意味します。聖霊が一人ひとりに与えられるという事は、紛争、侵略、飢饉、弾圧、差別に満ちた、何をしてでも変わる事なん

てないと諦めの気持ちにさせられるこの世界は、決して暗黒と絶望で終わらない、神様が生きて働いておられる希望に溢れている世界である事を伝え、この希望を生きる「証人」に一人ひとりになる、そういう変化であり、私たち一人ひとりが変えられる事によって、世界が変えられる、その「証人」になるとのキリストの宣言です。これらの事を話し終え、キリストは天に挙げられます。聖霊降臨までのキリストの不在の期間を過ごす手がかりをエゼキエル書に聴きたいと思います。エゼキエルは、神の民の捕囚の原因と意味を象徴的言葉や譬えで語ります。本日の日課でいえば、39章23節です。捕囚の原因は、南

ユダ王国の経済力、軍事力、政治力、外交力の乏しさではなく、偶像礼拝にあると糾弾します。神でないものを神と崇めて生きる生き方。自分の欲望や考えを、神の思いに優先させる生き方。パウロの言葉で言えば「自分の腹を神とする」という生き方です。故に、バビロン捕囚は過去の出来事ではなく、現代の私たちもまた捕囚の民であり、同時に捕囚する側にあるという事が示されています。

エゼキエルは糾明のみならず、捕囚からの解放を預言し、神様の慈しみ、39章25節「神の妬み」を伝えます。この「神の妬み」を、新共同訳は「熱い思い」と訳しました。大切に思い、愛している契約関係であるが故に、対等に向き合ってくださいからこそ、裏切りを無視せずに怒り、立ち帰るならばいつまでも過去にこだわらず赦し、慈しまれる、そういう神様の特質が「神の妬み」です。

エゼキエルがどうしても伝えなかった事は、神さまの慈しみと赦しは、人間の悔い改めを前提にされない、神様の側からの一方的な、無償の恵み、贈り物だという

事です。エゼキエルにとって大切なのは、順番です。神が慈しみをお与えになるのは、イスラエルの民の悔い改めや罪の自覚があったから、だから神様はイスラエルの人たちを赦した、のではなく、神の慈しみが先にあり、人間が自分の罪に気づくのは既に赦されている時だと語ります(26節、28節)。この先行する神の慈しきは、捕囚の民だけでなく、キリストの不在の10日間を生きる弟子たちも変えます。彼らは、ただ集まり、静まって祈ります。その祈りは、キリストに祈られ、赦された事をペトロに思い起こさせ、裏切りにおいてユダも自分も同じであり、弱く惨めな自分を告白する者に変えます(使徒言行録1章15節以下)。

今日の招詞は、孤独の極みの中で、祈られる事こそ必要なはずのキリストが、弟子たちの為、私たちの為に祈ってくださいだった祈りです。私たちの悔い改めに関係なく、今も祈ってくださいっているキリストを実感できなくても、感謝して参りましょう。なぜなら、キリストの祈りは世界を、教会を、私を変え、一つにする力だからです。

思いきり笑おう



アブラハムは息子を、「笑い」を意味するイサクと名付けました。

周囲に喜びと笑いを与える存在だと知っていたからです。

笑いは最良の薬とも言います。あなたを笑顔にするものは何ですか？

スマイル

安部隆雄

高齢でパートナーを失って以来、1年半、思い切り笑った記憶はありません。基礎疾患を幾つか抱え、通院と身体ケアで高齢生活がこれほど忙しくなるというのも、思ってもみなかったことです。加齢による病的・慢性的体調不良は自然のことで当たり前とはいえ、現実には厳しく、笑っていられるはずもない。

だが、落ち込んで暗い表情の老いぼれに、誰が話しかけてくれるだろうか。悩み、苦しみ、悲しみは終わりの日まで背負ってゆく己の十字架だから、最後は主が受け止めてくださる。

残された時間は「思い切り笑って」過ごすこともできる貴重な時間ではないか。唯一人、部屋で好きな音楽を楽しみ、外では公民館の囲碁クラブで10年ぶりに石を持

つこともできた。限られた友であっても碁盤を囲み、心ゆくまで興ずることができているのを感じしよう。

知らない方のために囲碁の玄妙さの一つをご紹介します。碁基には「死んで打つ」というのがあります。自分が打った石が死んではずまらない、生きてこそ価値があるはずですが、あえて捨てることもあるのです。相手が手をかけて取りにくければ、他に転ずることで効率よく新天地を開くことができます。柔軟な思考が求められる世界が碁基にもあるのです。

小さな喜び、幸せはどんな場合も身の回りにある。感謝して受け取ることで Big smile へ。



京都で考えたこと

石垣 章

コロナ禍の最中、自宅待機やら外出規制やら大変な事態が続いていた。こうした中、22年5月から7月にかけては、高温多雨が続き、体調を崩し、自分は運動を控える身となった。23年5月からは、コロナも下火となって、脱コロナの動きは顕著となった。

この動きにつられて6月に4日ほど京都に行ってきた。1年ほど前に開業した東山のホテルに3泊した。このホテルは日本人向けというよりインバウンドの観光客を当て込んでおり、様式は西洋風、照明は部屋の中も暗く、サービスも日本流のおもてなしではなく、全く西洋風であった。確かに街中に外国人観光客は増えている。だいぶ前になるだろうか。中央線の車内で外国人の観光客に出会ったことを思い出した。仕事帰りの神田駅。電車に乗ると、旅行者風の白人夫婦が荷物を抱えて座っ

ていた。その隣に座ると、白人女性と目が合った。「英語を話しますか?」「はい、少しなら(ニコニコ)」「これは中央線快速ですか」「そうです」「新宿は幾つ目ですか」

「3つ目で10分ちよつとです。どこからおいでですか」「アメリカです」「どの辺ですか」「西海岸、サンフランシスコに住んでいます。アメリカには来たことがありますか」「はい、NYに74年、77年まで仕事で派遣されてきました。これを聞いていた夫の方が「何の仕事で?」「金融関係です。その後シドニーやロンドンにも駐在しました」。彼女が「私は今回初めて日本に来て、飛騨の高山や京都、奈良も見物しました。日本は素晴らしいところです。人々も、とても親切です。交番で訊いたときは、その場所までわざわざ連れて行ってくれました。ただ街中で英語が通じないのはちょっとまいりましたが。」「そうですね。でも今日は英語が通じて良かったですね(笑笑)」。

コロナ禍を経て、このように微笑み合い、心を通い合わせる事が少なくなつたか。今回京都で考えさせられたことであつた。

笑顔

小川徳子

コロナ禍で会えていなかった親友とやつと最近会うことができました。毎年数回は会っていたのに、3年半ぶりの再会でした。マスク着用での再会でしたが、久しぶりに会えた嬉しさと対面でのおしゃべりに、お互い笑顔で楽しい時間を過ごすことができました。

学生の頃に、ほとんど会話したことのないクラスメートに「いつもニコニコして楽しそうだね」と言われたことがあり、私つてそういう印象なんだと思つたことがあります。いい思い出ばかりではありませんが、あの頃は楽しかったなと思うので、きつと笑顔になれる日々を過ごしていたのだと思います。主人にも、出会つた頃の印象はニコニコしていると言われたことがあります。結婚してから、笑顔ではないときの私のことも引くるめて受けとめてもらつていて感謝しています。

日々笑顔になる自分をあまり意識して過していませんが、嬉しいことがあつたり、楽しいことがあつたりすると笑顔になります。癒されてホッコリした時の笑顔、幸せな気持ち嬉しい気持ちになつた時の笑顔、おかしくて思わず笑ひころげてしまう笑顔、どの笑顔も自分の笑顔でも他人の笑顔でも、心が満たされて明るい気持ちになります。ストレスが溜りすぎた状態の時に、息抜きや気分転換が上手くできないことが続く、何か無理して笑つていたり、いつもなら笑顔になつていないことに笑顔になれなかつたりします。笑顔は心のバロメーターにもなつているのかもしれない。無理しすぎていることに危険信号を送つているような気がします。

笑顔はその場を明るくして人の心を和らげてくれます。家族を含め私の周りの人たちが笑顔だと、とても幸せな気持ちになり、私も笑顔になります。大切な人の笑顔はパワーにもなります。

これからも、祈り、神様に委ねニコニコ笑顔で歩んでいけたらと思います。

大笑いは子どもに任せる

高木悦子

幼い頃病弱でうちにいることが多かった私に、父母はできる限りの破顔を以って「悦ちゃん、悦ちゃん」と呼びかけ、滋養に心がけてくれました。そんな家族が喜ぶことは進んでいたいと考えていたように思います。

結婚すると、義父は軍人でしたから無駄は一切なし。食事中も黙々と食べろと喋ける、ただ前進一字の家族で、兄弟二人とも医者になりました。ところが義父は晩年、書道教室を開き、心を尽くして稽古にいそしむ私に、本当に誠意をもって破体書を仕込んでくれました。主人はたたかれた分優しく、支援してくれます。周りの人を喜ばせたい私たちは、病院や書道教室での人との出会いで、知っていることを誠意をもって伝え、お相手の事情に合わせて向かい合いますが、困惑したり神様への祈りなしには一時も進みません。神

様が与えてくださった恵みに感謝しながら忙しく過ごしていることやお嫁さんが思いっきり笑いに溢れる孫や友人を連れて来てくれます。孫の名前は人生を楽しむようにと息子の命名で樂(ら)です。

子どもは神様からのギフト。来てくれるだけで真面目一方の我が家の空気がガラッと変わり、声まで明るくなります。孫が来ればなおさらです。主人のへの字の口の顔が丸くなります。私たちも神様の子もだからお互い微笑みあい、大笑いしたらきつと神様は喜びになるでしょう。

最近リハビリは裏切らない、まだ鍛えられる、まだ学ぶことが沢山ある、と塾生を謳歌しています。途絶えていた入門講座の岸先生の聖書のお話の復活に加え、聖歌隊の練習も再開し、活気を帯びてきました。若い力を呼び込もうと頑張る練習を各自でも励んでいきます。一緒にお食事ができたらさぞにぎやかになるでしょう。

家では書を通して関わる方の可能性を一緒に探る楽しさに笑顔で過ごしています。

夢の続き

諸橋鷹広

僕を笑顔にするものは、やはり子どもとの時間です。早いもので、6月6日で1歳になりました。神様の守りの中で無事に産まれ、恵みを受けて1年間健やかに育つことができたことに感謝です。「直」という文字は、教会員の方の名前から一字いただきました。自分がちゃんとした父親になれているかは、まだまだ不安です。父親として、我が子とどう向き合っているのかと悩むこともあります。

当然、僕にも父親がいます。婚外の二人の間に産まれましたから、諸橋という名字は母方のものです。父の顔はもう覚えていませんし、今どこで何をしているのかも分かりません。会った回数も片手で数えるくらいしかありません。それでもよく覚えている思い出は、横浜にあるコスモワールドです。僕は父に肩車をしてもらい、観覧車に届こうと大きく手を伸ば

しています。父の右手は、僕が落ちないよう小さな身体を支えていました。父の左手は、兄の手を握っていて、母はその後ろを歩いていました。家族が4人揃うことはなかなか無かったので、よく覚えていきます。今はもうありませんが小学生の頃はよく、この光景が夢に出てきました。遠くにいようと、誰と過ごしていようと、元気でいてくれればと願うばかりです。

息子の直はよく笑う子です。つられて僕ら夫婦も思わず笑ってしまいます。教会に来ると、少し緊張するのあまり笑いませませんが。保育園で覚えたのか、名前を呼ぶと、笑いながら手を挙げてくれます。仕事に向かう時、バイバイと手を振ると、バイバイと手を振り返してくれることもあります。喧嘩の多い夫婦ですが、我が子が私たちを笑顔にしてくれます。

もう少し大きくなったら、肩車をしてみよう。絶対に落ちないよう、しっかりと両の手で支えよう。その後ろをお母さんが見守っている。君が大きくなったら3人で一緒にみよう。あなたと過ごした夢の続きを。

説 教

『今から後』

ルカによる福音書5章1節〜11節

種房惇子

この物語は、主が主体となつて弟子ペトロを選び、生業である漁師を捨て、家族を捨てて、イエスを主とする生き方に向転換させ、生涯その信仰を貫くように導かれた話です。主イエスの「網を降ろしなさい」との命令に、経験豊かな漁師であるペトロたちは半信半疑で従いましたが、大漁となり、主が目の前で權威をもつて自らの言葉を実現された姿に不信仰の罪を自覚させられました。自分の知識や技量を遙かに超える神の力を知り「私は罪深い者です」とシモン・ペトロは告白しました。「恐れることはない。今から後、あなたは人間をとる漁師になる」との主イエスのご計画に基づく招きにより、ペトロは自分の力に頼る生き方から方向転換し、多くの民を救いへと導く宣教の使命を担ったのです。

全てを捨てて主イエスに従ったペトロたちの今から後の生涯はどのようなものでしょうか。「神のメシアです」と明白に信仰告白したペトロでしたが(9・20)、主イエスが度々語られる十字架と復活の話に躓きました。神の国のために両親、家族を捨てた者はこの世で何倍もの報いを受け、永遠の命を受けるとの言葉に栄光に輝く王座に着きこの世を支配される時が到来し、自分たちには特別な地位が与えられると理解しました。十字架が迫った頃に主イエスが、ペトロが、繰り返しされるサタンの誘惑により、信仰が無くならないように祈って「あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい」と言う(22・32)、ペトロが「主よ、ご一緒になら、牢であるかと死であろうと覚悟しております」と答えました(22・33)。それに対し主イエスは、「今日鶏が鳴くまでにあなたは三度私を知らないと言うだ

ろう」と予告されます(22・34)。主イエスのためなら牢屋でも、死でも構わないと断言したペトロでしたが、主イエスの磔刑の後、主を知らないとして度々裏切り躓くこともご存知でした。ですから「あなたが立ち直ったら」と既に言っていたのです。主イエスの捕えの場に居たペトロは、その現実にも動揺しました。鞭打たれ、唾をかけられ、弱々しくなだれる十字架上の主イエスの姿に、打ちのめされ恐ろしくなり、逃げ去りました。ペトロは、イエスの同僚だと指摘されると「私はあの人を知らない」「あの人の仲間ではない」「言っていることが分からない」と三回否定しました。すると鶏が鳴きました。正に主イエスが、生前ペトロに予告された通りのが起りました。ペトロは鶏の声に、その事を思い出し「激しく泣いた」(22・62)と書かれています。

ヨハネによる福音書では、復活された主イエスが、弟子たちと食事と共にされ「ヨハネの子シモン、私を愛しているか」と問われる場面があります。三度も同じ事を聞かれたのは、ペトロが主イエスの十字架直後に主を三度否んだが、ペトロが今でも変わらず主を愛しているかとの確認だったのです。ペトロが主への変わらぬ愛を伝えると、主イエスは「私の羊を飼いなさい」と告げられました。裏切ったペトロを赦して尚もお用いになる主イエスの愛の現われです。人間をとる漁師の働きから更に進んで、羊を守り導く羊飼いに用いようと言われたのです。

「若い時は、自分で帯を締めて、行きたい所へ行っていた。しかし、年を取ると、両手を広げ、他の人に帯を締められ、行きたくない所へ連れて行かれる」と将来ペトロが歩む道を予告されました(ヨハネ21・18)。それは神の栄光を現わすための仕方であり、ペトロがどんな死に方で神の栄光を現わすかを示す主イエスの言葉です。こう話した後ペトロに「わたしに従いなさい」と命じたのです(ヨハネ21・19)。それが、今日の聖書箇所5章10節の「今から後」のペトロの生き方でした。エウゼビウスの教会史によると、ペトロは「逆さ磔刑」で殉教の死を遂げたと言われています。

説教

『日々の志』

ローマの信徒への手紙12章1節〜2節

岸 俊彦

「あなたがたは、この世と妥協してはならない。むしろ、心を新たにすることによって、造りかえられ、何が神の御旨であるか、何が善であつて、神に喜ばれ、かつ全きことであるかを、わきまえ知るべきである」(口語訳12・2)。

厳しい言葉です。私たちは、この世と妥協しながら、折り合いをつけながら何とか暮らしているからです。

聖書協会共同訳聖書は、「あなたがたはこの世に做つてはなりません」と訳しています。口語訳に比べて穏やかな訳ではないでしょうか。直訳は「この世にあわせた形をとらず」となります。

この世にはこの世の論理があるでしょう。この世に生きる私たちには、それぞれのライフ・スタイルがあるでしょう。それぞれの年代、身分、職業、家族構成、それぞれの価値観によって、様々なラ

イフ・スタイルがあるでしょう。

この世のライフ・スタイルに対して、この世に合わせた形ではないライフ・スタイルがあると聖書は教えます。

パウロは、「この世の有様は過ぎ去る」(1コリント7・31)と言いました。この世の有様は、私たちを含めて変わります。過ぎ去ります。廃れます。廃れていく世にあつて、世に流されない生き方があります。この世に做わない生き方、この世に合わせた形をとらないライフ・スタイルがあります。

「天地は滅びるが、私の言葉は決して滅びない」(マタイ24・35)とキリストは教えてくださいました。天地が滅びようと決して滅びることのない、キリストの言葉にあわせたライフ・スタイルを私たちは形作ることができるのです。聖書の言葉によって「心を新たにして自分を造り変えていただ

く」(ローマ12・2) ことができ

「何が神の御心であるのか、何が善いことで、神に喜ばれ、また完全なことであるのかをわきまえるようになりなさい」(12・2)とパウロは勧めます。これこそ、この礼拝の目的です。聖書の言葉に聞き、祈り、賛美するのです。ここで礼拝する姿勢を身につけて、日々の志とするのです。この

世界を造られ、歴史を導かれ、この現実を治めておられる方が実はどうなのか。しっかりと目を開き、耳を開き、心を開くことです。

説教準備のために注解書を読みます。その中にドイツ人神父が日本語で書いた注解書があります。6年前に亡くなられた上智大学の教授だったワルケンホースト先生の注解書です。

先生の注解書は4巻からなるのですが、3巻目にあとがきがあります。そこには、先生がなぜイエズス会の修道士になったのかが記されています。

第二次世界大戦中、高校生の時、住んでいた町のユダヤ教の会堂が焼き尽くされ、級友のユダヤ人が

ふと姿をみせなくなつたと。そのことで悩む自分に、父親がドイツ政府は必ず神の罰を受けることになると話したそうです。聖書が伝えるイスラエルの選びと契約、罪と罰について父親が語ったそうです。そして、「聖書の御言葉が無効になることは決してない」と先生に語つたのです。

先生は戦後、イスラエルに対して犯したドイツ人の罪を償う生活を送りたいと考え、イエズス会の修道士となりました。「自分の体を、神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げなさい」という御言葉に聞き従つたのです。さらに具体的に、「みことは無効にならない」というパウロのメッセージを、今日も明日も日本人に宣べ伝えたいと考えました。それが御心に適つた唯一の神に仕えることだと確信したからでした。

先生のように、生涯を献げて伝え続けられてきた、これからも伝え続けられる、決して滅びることのない聖書の言葉を分かち合い、慰めとし、励まし合うために私たちは礼拝します。日々の志を形作るために礼拝するのです。

東京教区常置委員に 選出されて

去る5月30日に赤羽会館で東京教区総会が開催され、常置委員半数改選選挙で常置委員に選出されました。自分がなぜ選出されたのかは全くわからないのですが、神様のお考えと信じて為すべきことをしていきたいと思っています。

2018年に経堂北教会の長老になり、西南支区の常任委員を昨年度から務めさせて頂いていますが、それぞれ会議に出席すると教勢の低下が話題によく上がります。支区の常任委員会では、小規模教会をどう支えていくか、どんなことができるかを考え、話し合いも持たれています。実際、経堂北教会では、コロナが5類になっても、礼拝出席者数が以前の水準に戻るどころか、減少している現状があります。教会員の高齢化に加え、礼拝をはじめ、各種の集会やイベントに知り合いを誘うことがまだまだ難しいということもあるでしょう。これから教会が、また教団がどうなっていくのか、心細くなってしまうと思います。私事

ではありますが、大学時代、キリスト教研究会というサークルに入っており（まだ受洗前でしたが）、部員が減少した流れで部長を引き受けたものの、結局サークルを廃部させて頂いたことがありました。そんなことを思い出しています。

しかし、イエスがお生まれになって2千年余り、キリスト者は平坦な道を歩んできたわけではありません。振り返ってみれば殆どが困難の中にあつたと思うのです。

6月13日に第1回の常置委員会があり、出席しました。教区常置委員選出の方法や、議事進行の仕方などについて話し合いが行われました。岸先生をはじめ個人的な先生方がおり、面白いと思うとともに、組織として活動することは俗世間と同じで色々大変なこともあるのだと感じました。欠けのある私たちが神様に用いられ、神様の栄光を現すために働く、その私たち一人ひとりに神様は働きかけてくださり、強めてくださる。その思いを胸に、新たに与えられた東京教区常置委員の任を務めていきたいと思えます。（大友太郎）

長老のファイル

梅雨で、蒸し暑い季節となりました。5月8日に新型コロナウイルスが法的に5類に移行して以降、マスクを外している人が増えました。リモートワークから出社に切り替わった人、会食や旅行に出かける人、海外からの観光客が増えて、街は新型コロナウイルス前の状態に戻りつつあります。教会では受付の記名はご自身で行うようになりましたが、引き続き、マスク着用や間隔を空けた着席等の感染対策を行っています。

子どもの日・花の日には、久しぶりに教会学校の子どもたちが花かごを作り、駅と消防署を訪問することができました。子どもたちも保護者も楽しい時を過ごすことが出来て感謝です。もちろん、新型コロナウイルスは無くなった訳ではありません。少しずつ感染者は増加しており、感染拡大の第9波が懸念されています。私たちは感染対策に注意を払いつつ行動するしかありません。8月にはCSキャンプを予定していますが、無事に実施

することが出来ますようお祈りください。

7月23日には、ベルリン日本語教会の秋葉睦子宣教師をお招きして夏の集いを行います。ベルリンでの宣教の様子を中心に、コロナ禍の状況やウクライナ情勢への視点などをお話しいたします。貴重なお話が伺えると思いますので、ぜひ奮ってご参加ください。

長老会では、2025年4月以降の岸牧師の後任を招聘するため、長老会の回数を増やして検討してきました。教憲教規を遵守し、教会基本方針・規則に同意し、より教会、支区、教区、教団の交わりを大切にする牧師であることを招聘条件として、動き出しています。少子高齢化が進む昨今、牧師の成り手は益々減っており、働き盛りの牧師の層は多くはありません。説教に力を注ぎ、伝道と牧会にあたる牧師を招聘できますよう心を合わせて祈りましょう。人選が決まった後には、牧師館の改築や事務の見直しを進める必要があり課題は沢山ありますが、どうぞ御心どおりとなりますように。（酒井由紀子）

牧師の書齋から

教団の予算決算・監査委員会が6月20日に教団会議室で行われました。予算決算委員7人、監査委員3人、幹事3人の出席者でした。主な内容は2022年度決算に関する件でした。

教団には経常会計と32の特別会計があります。特別会計は各委員会の会計です。室料収入などの収益事業もあります。その他に各地のセンター、出版局、年金局があ

ります。決算書を見るだけでも教団はこんなにも多様な働きをしているのかと驚かされます。

宗教法人は基本的には憲法の保障する信教の自由を守られて免税です。会計の形式についても特に規定があるわけではありません。ただし教団は消費税などの税金を納めなければなりません。そのため税理士と会計士と相談しながら、委員会は教団会計全般を見ます。素人の私が、かなりの分量の決算書を詳細に見ることができずはありません。専門家や財務

幹事、会計監査委員の報告と説明を聞いて幾つか質問する程度です。

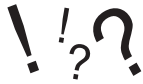
ただ、30年前、教会財務の電子化を行った際、当時の会計長老から收支計算書、仕訳、残高試算表、元帳、貸借対照表の見方と作成について教えられました。支区長、教区議長、教団年金局常任理事を経て、今回の委員と、財務諸表を見てチンプンカンプンということはありません。もちろん専門的なことは専門家に任せなければなりません。教会財務の電子化が、思いがけないところで多少かもしれ

ませんが役立っています。

教団の教勢と財政の縮小がコロナ禍により予想以上に加速しています。一方で委員会活動などの縮小とオンライン会議の普及で経費が削減されました。2022年度は何とか差益が出ました。

主が必要なのは備えてくださることを信じて、伝道と教団(教会)形成のために、今日何ができるのか祈り求め、御心に聞き従うほかありません。できることとできないことを見極める知恵を主が与えてくださいます。(岸 俊彦)

個人消息



掲示板



○教会夏の集い

7月23日(日) 午前10:15～午後1:00

説教「恵みのターニングポイント」

使徒16:6-10

講演「ベルリン宣教を通して福音を分かち合う」

1ペトロ3:15

秋葉睦子宣教師(ベルリン日本語教会)

編集後記



▽股関節の手術から3ヶ月が過ぎました！この場をお借りして、皆さまの励ましとお祈りに感謝します。(沢田)

▽私は落語が好きで、たまに見に行き大笑いしています。本編の前のマクラが面白く、個人的には春風亭昇太、一之輔がおすすめです。(酒井)

「栄光」2023年7月号

日本基督教団 経堂北教会

〒156-0051 東京都世田谷区宮坂3-21-11

電話：03-3428-5029 / FAX：03-3428-5038

牧師：岸 俊彦

編集：栄光編集委員会

Email：kyodon@nifty.com

HP：http://kyodokita.life.cocacn.jp